

世界学生選手権(WUC Orienteering2024) 出場報告

二俣真

京都大学大学院 2年

1.はじめに

この度ブルガリアで行われた2024年世界大学オリエンテーリング選手権に日本代表として参加しました。私はスプリント、スプリントリレー(1軍2走)、ミドル、フォレストリレー(2軍1走)に出場しました。この報告書では各競技の結果とレース内容、総括を記載します。

2.結果

スプリント(8/1日) 3.9 km(↑35 m)

タイム:16分00秒(+2分05) トップ比115% 60位/127人

WUCOの代表選出が確定してからは特に走力向上に力を入れてきたため、結果を出したい種目だった。レース全体として、地図表面(前半)はある程度無難にこなす事ができた。しかし、裏面(後半)でペースが落ちてしまい減速、また1レグで30秒程度のミスを計上した。気温が高く、湿度が低い、高地(標高1200m)という気候条件で呼吸がしづらくなってしまったが、それらへの対策をもう少し出来たと感じている。具体的にはトレキャン期間の練習の強度不足、ウォーミングアップ時の給水や体温上昇への対策不足が挙げられる。60位という結果になってしまったが30位以内(トップ+1分)までは現在の實力でも現実的だと感じた。しかし、10位以内(トップ+20秒)の選手に勝てるとは思えず、走力の向上等(現在は3000m:9分1桁)が必要だと感じた。

スプリントリレー(8/2日) 3.48 km

【チーム結果】タイム:55分05秒(+4分07) トップ比108% 11位/24国

【個人結果】タイム:13分21秒(+1分11) トップ比110% 26位/84人(全走者)

近藤-二俣-本庄-桑原のチームで挑んだ。近藤が集団で帰ってくる想定、自分は日本チームの中では最も走力があるので集団から離れずになんとか本庄に繋ぎ、3,4走に粘ってもらう(3,4走の時点で周りに選手がいるような状況を作りたい)、という作戦だった。結果として近藤からトップ+34秒(10位)で貰い、トップ+67秒(13位)で繋ぐ事が出来たのは非常に良かった。前半のミスで集団から離れてしまったが、見通しがよいコースだったのもありその後はミスなく少しずつ前との距離を詰めていけた事は良かった。前回のWUCOでは日本チームが+6分08秒で10位、今年度が+4分07秒で11位と昨年度と同程度の結果を残せており、チームとしては満足いく結果だ

った。2年前の日本チームは特にリレー種目でいい結果を残したと認識しており、メンバーが変わっても同じような位置に付ける事が出来たのは嬉しく思う。

ミドル(8/4日) 4.6 km(↑230 m)

タイム：45分13秒(+15分00秒) トップ比150% 90位/132人

正直どの程度通用するか分らず、やってみるしかないというような状態だった。トレキャンでもあまりトレインに対応出来ているとは言えず、あまり自信がなかった。結果は90位と本大会の自身の結果としては最低であり、予想通りではあるが悔しく感じている。トレインは片斜で日本に比較的似ており、もっとやりようはあったと感じる。

ミドルリレー(8/5日) 4.36 km(↑180 m)

【チーム結果】 タイム：1時間45分00(+20分53) トップ比125%

23位/35チーム ※Japan1より遅いため、official result はなし

【個人結果】 タイム：32分34秒(+5分53秒) トップ比122%

60位/105人(全走者)

二俣-用松-石原の3人で挑んだ。これもスプリントリレーと同様に集団の中で用松に渡すという事が自分の仕事だった。ビジュアルまでは5チーム程と競っていたがビジュアル後の回しで自分だけが遅れてしまい、結果として回りに選手がいない状態で2走に託すことになってしまった。後ろの2名がなんとかまとめてくれたがもう少しよい位置で渡したかったという気持ちはある。レース全体を通して集団になった際に自分が前に出たいという気持ちが先行し、前に出るもアタックで追いつかれるという事も散見された。自分よりも格上の選手との集団走で他選手を上手く使えず経験不足を感じた。

3.総括

良くも悪くも自分の実力通りの結果だったと感じる。しっかりWUCOに向けて調整してきたし、トレイン対策もしてきた。その成果は発揮されたと思っており、ある程度は通用したと考える。自分のベストレースが出せればそれなりの順位を取れる、と思えたことは非常によかった。ベストレースはそう簡単に出せるものではないが。

怪我への対策をしていなかった事は反省として挙げられる。本大会中に靴擦れ、転倒による膝の擦過傷、を起こしてしまった。起きたものはしょうがないが、テーピングテープや絆創膏を持参しておらず怪我に全く備えていなかった事は非常に反省して

いる。チームメンバーや他の日本の選手に助けて頂き、本戦には万全の状態に挑むことが出来たが今後は自分できちんと準備しておく。

最後になりますが、チームメンバー、オフィシャルをはじめとして支えて下さった方々に厚く御礼申し上げます。この経験を活かし、今後もオリエンテーリングに取り組みます。応援よろしく申し上げます。